

「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

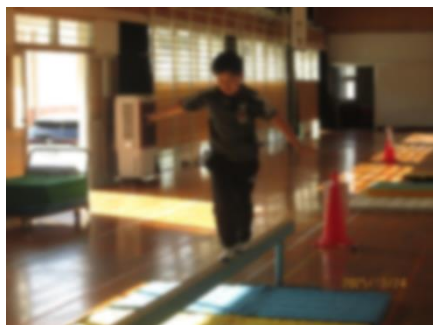
桐谷先生 村上先生 【自立活動】 の授業研から

10月24日(火)、ひまわり8組の桐谷先生、ひまわり5組の村上先生、の2名が「自立活動」において授業研を行いました。

2クラスともに素晴らしかったのは、「学級の一員として自分の持ち味を発揮しながら主体的に学習に取り組んでいるそのよさを、子ども自身が実感していた」ことです。「子ども自らが目的をもって取り組める学習」、「友達との関わりから自身の高まりを実感できる学習」、まさに本校が目指す子どもの姿を見ることができました。またそのための題材を、子どもの実態に応じて開発していたところも、見逃せません。どちらも「コミュニケーション」に重きをおいた学習でしたが、桐谷学級は「動きのある学習」、村上学級は「一緒に楽しめる学習」と学級のカラーがよく表れていました。

ひまわり8組(桐谷学級)では、「サーキットトレーニング」の学習が行われました。全部で6つのエリアが設定されていましたが、それぞれのエリアで自分が目指す動きが自己選択できるようになっており、子ども達の学習への意欲を高める大きな手立てとなっていました。また、子ども達一人一人に模造紙サイズのボードが用意され、「動きのよさ」はもちろん、「関わり方のよさ」について友達からのメッセージを積み上げる仕組みが用意されていました。子ども達自身に「活動における友達とのより良い関わり」を意識させるための手立てとして有効に働いていました。授業の終末段階では「フォーム」による振り返りが行われました。その日の頑張りはもちろん、今までの学習の積み上げを視覚的にとらえることが、子ども達の成長の実感につながっていました。

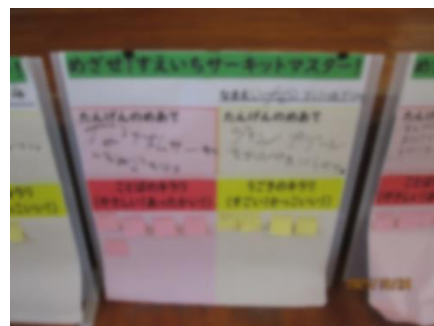
ひまわり5組(村上学級)では、「すごろく」による学習が行われました。「自分がつくった」すごろくを使い、みんなで楽しむ学習は、それ自身が自己有用感・自己存在感を高める大きな手立てとなっています。めあての設定場面では、自分の今日のめあてを「自分で決め」、その一つ一つが板書の「めあて」に反映され、子ども達への学習への参画意識をより高めることができていました。ゲームの最中に困った際は、「ヒントカード」が有効に使われていました。「ヒントカード」を活用しながら「自分の気持ちを伝える力」を身に付けさせることはもちろん、その「友達のヘルプ」に応え、友達を支える心地よさを味わわせることが、子ども達に「人と関わることへの自信」につなげることができていました。



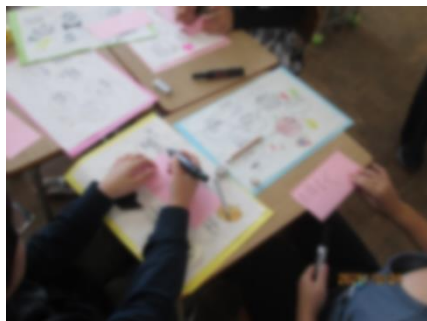
自分に合った動きの自己選択



協力場面の意図的な設定



頑張りやよさの視覚化



豊富な自己選択・自己決定の場



意図的な関わり場面の設定



心情の視覚化